2025年度　自己評価結果公表シート

学校法人　京新学園

太秦幼稚園

1．本園の教育目標

「知」・「徳」・「体」・「食」のバランスのとれた保育を教育方針とし、幼児教育を行っている。
「知」・・・知恵、考える力を育てる
「徳」・・・善悪の判断を自分でできる子どもに育てる
「体」・・・健康な体に育て、十分な体力をつけさせる
「食」・・・食に関心をもち、感謝する心を育てる
この精神を基にして、先生や友達と一緒に幼児期に必要な経験を積むことで、人との信頼関係やコミュニケーション能力を育て、意地悪をしない正しい心、人を許せるやさしい心、嘘をつかない強い心、謝ることのできる素直な心を持った心豊かな子どもの育成を目指している。

2．本年度、重点的に取り組む目標・計画

教職員同士の意見交換の場を設け、保育の質の向上に組織的に取り組む。保育内容の改善や見直し等を積極的に行う。

3．評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
1．保育の質の向上	・臨床心理士との園内研修では、子どもの内面理解や個々に合わせた視覚教材を研究し作成、実践し保育の質の向上に繋げられた。また、デスカッションも多く取り入れたことで、経験の浅い職員が経験談を聞く場があることで子どもとの関わり方や指導方法などの学びに繋がった。 ・オンライン研修や対面研修へ自主的に参加し、自己研鑽を高めることができた。
2．子育て支援の環境づくり	・未就園児保育や園庭開放では、幼稚園を知って頂ける機会となり保護者の憩いの場としてたくさんの利用があった。遊具や玩具などの環境が充実しており、子どもたちも楽しむ様子が伺えた。日よけ用のテントを出したり、水遊びコーナーなどクールダウンする場を設けるなど暑さ対策も視野に入れて環境を整えられた。 ・臨床心理士の定期的訪問に加えて保育現場で生かせるアドバイスや、視覚教材など個々に合った支援方法を実践することができた。また、専門的立場からのアドバイスを保護者と共有し、支援体制の充実が図れた。子育て相談は保護者からの希望も増え家庭とも連携して子どもの成長を見守れた。
3．異年齢児との交流など	・園庭あそびの充実を図り、新しく玩具を取り入れたことで異年齢児の交流も多くなり教え合ったりする姿が多く見られた。 ・延長保育の充実したカリキュラムの為、利用者も多く、縦割り保育ならではのかかわりも多く見られた。満３歳児も含めての異年齢交流も定着しつつ、思いやりを持って関わろうとする姿が増えた。 ・運動会や生活発表会の練習で演技を見せあい、互いに刺激を受けたり憧れを持てるようにした。みんなの前で発表して、たくさん拍手をもらえたことが自信に繋がった。
4．危機管理	・前年度の見直しを行い、新年度の園全体についてやバスの乗降時での「ヒヤリ・ハ

安全管理	ッと」マニュアルを改善。全職員で共通理解し、環境整備が行えた。 ・不審者防犯研修を行うことでより一層、教職員・運転手と連携し、職員間での共通理解や意見交換を密にすることで更に園舎の安全面の強化に繋がった。 ・職員が常駐していない時間帯である延長保育や課外活動の送迎での門の開閉については、安全対策への協力のお願いとして保護者への注意喚起のメール配信をしたり掲示物を増やしたりした。課外教室の講師とも連携し保護者への安全面への協力を行った。 ・避難訓練を通して園児が自分で考え行動できるように計画的に実施できた。また、スイミング活動の中にも身を守るための動作を組み込み、落ち着いて子どもたちが行動に移せるように今後も引き続き、指導していく。 ・消防からの救命救急講習会を姉妹園合同で研修を行った。AED や誤飲対応など、幼児向け、乳児向けそれぞれの対応の仕方を再確認できた。
５．地域の役割を果たすための環境づくり	・幼児教育と小学校教育を円滑に接続するため、自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いに気付けるように日々の保育に努めている。また、保護者の協力が必要な場合は園と連携していただけた。

４．学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・危機管理体制についてマニュアルも都度改善し、安全管理を行えた。防犯研修を通して園舎の安全面を見直し、設備を強化できた。

５．今後取り組むべき課題

課　　題	具体的な取り組み方法
１．保育の質の向上	・臨床心理士からの園内研修では、引き続きテーマに沿ってデスカッションを行い経験者から子どもとの関わり方を聞いたり、職員間の共通理解が図れるようにする。また、有効的だった視覚教材の実践報告の発表なども組み込んでいきたい。 ・乳幼児の保育・教育の環境構成や教材の研究に積極的に取り組み、専門性を高める。 ・新人や経験年数が少ない職員にも指導方法などについて早期から園内研修を実施し、教職員が共通意識を持って取り組めるようにする。 ・外部講師のカリキュラムでは、講師から専門的な知識や指導法を学ぼうとする意識を持ち、保育に生かせるようにする。
２．子育て支援の環境づくり	・在園児の保育が充実した中で、未就園児向けの親子教室（夢キッズ）の充実や、園庭開放などで地域の子育て中の保護者の方に寄り添える環境を整えていく。 ・引き続き、子育ての悩みなど気兼ねなく話していただけるよう子育て相談を実施する。
３．異年齢児との交流など	・園庭での自由遊びや延長保育で異年齢児と関わる機会を増やし、教え合ったり助け合ったりと一緒に過ごす時間を今後も作るようにする。 ・延長や自由あそびでの異年齢の交流はあったが、クラス全体で交流したりすることが少なかったので集団遊びなどでの交流を増やしたい。
４．危機管理 安全管理	・門の開閉について、引き続き門の施錠の徹底を保護者に呼びかける。 ・こまめな水分補給や手洗いうがいの励行を促し、熱中症対策、感染症対策を徹底する。

	・毎月１回の避難訓練を行う。 ・防犯学習や不審者訓練などを行えるようにしていく。 ・子どもの安全を守ることができるように、全職員で気づきを共有できる場や話しやすい雰囲気づくりなど、職員間の連携の強化に努めて行く。 ・近年の猛暑の影響により屋外活動の在り方を見直す必要がある。これに伴い、室内においても子どもたちが主体的に遊びを深められるよう、環境構成や活動内容の充実を図っていく。
５．地域の役割を果たすための環境づくり	・これからも幼児教育と小学校教育を円滑に接続するため、自分の思いを相手に伝えたり、また、互いの思いを伝え合えるように日々の保育に努めていく。 ・引き続き、未就園児向けの親子教室（夢キッズ）の充実や、園庭開放の回数を増やすなど在園児の保護者のみならず、地域の子育て中の保護者にも寄り添える催しに取り組んでいく。 ・赤ちゃんポストの取り組みも視野に入れていく。

６．学校関係者の評価

・子育て支援、異年齢交流、園内研修、安全管理に積極的に取り組まれており、進級･進学もスムーズで安心して預けられます。 ・運動会や生活発表会、毎月のお誕生日会など、練習したことをみんなの前で発表する機会が多く、子どもたちの自信に繋がったと感じます。 ・未就園児保育や園庭開放を実施されており、地域の子育て環境も大切にされています。 ・定期的な避難訓練により、子どもたちの防災意識が高まったと思います。 ・近年は猛暑や自然災害も多く、引き続き暑さ対策や災害対策を進めていただけることを期待しています。